

宇田有三『閉ざされた国ビルマ』(2010年1月第1刷)修正箇所

読者から以下のような指摘がありました。第2刷で訂正する予定ですが、重版の機会が到来いたしませんので、先に「修正文」をHPにて発表させていただきます。 著者

【修正箇所(164頁)の指摘】

日本政府は八〇年代、ビルマの自立化に向けて、農業機械・軽車両・電気電子製品・トラックやバスの国産化を目論んだ「四工業プロジェクト」に数百億円規模を超える援助資金をつぎ込んでいた。そのプロジェクトを進めていたビルマの重工業公社の当時の総裁は、現在の軍政のトップであるタンシュエ議長でもある。タンシュエ議長が実権を握る背景に日本の援助は完全になかったと言い切れるのだろうか。

に関して、読者から「当時の重工業公社の総裁は、重工業公社三代目の総裁 Than Shwe 中佐」で、現在の軍政トップのタンシュエ上級大将ではないとの指摘がありました。

【修正の理由・修正後の文章】

私が当該箇所を書く際に参考にした『アジア読本 ビルマ』(河出書房新書)の著者の一人に確認をしますと、「タンシュエ」は現ビルマ軍政のトップ「タンシュエ」ではないとの返信を受けました。

そこで、「そのプロジェクトを進めていたビルマの重工業公社の当時の総裁は、現在の軍政のトップであるタンシュエ議長でもある。タンシュエ議長が実権を握る背景に日本の援助は完全になかったと言い切れるのだろうか。」の部分を削除したいと思います。

ただ、「四工業プロジェクト」そのものは実際に実施されておりましたので、前段の「日本政府は八〇年代、ビルマの自立化に向けて、農業機械・軽車両・電気電子製品・トラックやバスの国産化を目論んだ「四工業プロジェクト」に数百億円規模を超える援助資金をつぎ込んでいた。」の箇所は、そのままとします。